

【道路－5】事前評価

都市計画道路恩田元石川線

(鉄地区) 整備事業

(道路局)

(様式2)

公共事業事前評価調書 (案)

| | | |
|------|-------------|--|
| 事業概要 | 事業名 | 【道路-5】都市計画道路恩田元石川線（鉄地区）整備事業 |
| | 場所 (所在地) | 青葉区鉄町～青葉区もみの木台 |
| | 事業目的 | 恩田元石川線は、平成15年に都市計画決定した青葉区すみよし台から元石川町までを結ぶ延長約5,860mの都市計画道路です。このうち鉄地区は、平成28年3月に策定した「都市計画道路の優先整備路線」において、令和2年度頃までに事業着手する先行着手区間に位置付けています。 鉄地区の整備により、歩行者の安全性を確保していくとともに、災害に強い街づくりを進めていきます。 また、横浜上麻生線と日吉元石川線とを結ぶ青葉区内の幹線道路ネットワークの形成に寄与することから、鉄道駅等の地域拠点へのアクセス性が向上します。 |
| | 事業内容 | 延長約1,240m（現道拡幅約1,100m、道路新設約140m） 幅員22m、2車線、両側歩道（現道幅員は9～11m程度） |
| | 事業スケジュール | 令和4年度から令和12年度まで ※今後の検討状況により変更になる場合があります。 |
| | 総事業費 | 約73億円（工事費約40億円、用地・補償費等約33億円） ※今後の検討状況により変更になる場合があります。 |
| 位置図 | | |

| | |
|--------------------|---|
| <p>事業の 必要性</p> | <p>1 都市計画道路としての位置付け 当該路線は、平成4年から平成11年にかけて住民参加方式を取り入れ計画案の取りまとめを行い、平成15年に都市計画決定をしています。 「青葉区のまちづくり指針(平成29年9月)」では、区内を格子状に結ぶ骨格道路として位置付けています。</p> <p>2 環境、防災空間としての位置付け 地域の骨格的なネットワークを担う道路として、主に地域で発生・集中する交通を処理するとともに、歩行者の安全性の確保や、災害・緊急時における緊急物資の輸送路や、緊急車両の通行路としての役割を担うなど、総合的な機能を有します。</p> <p>3 地域拠点へのアクセス性向上のための位置付け 市が尾駅をはじめ、たまプラーザ駅やあざみ野駅など、区内の地域拠点へのアクセス性向上に寄与します。 また、当該周辺地域では、市営地下鉄3号線の延伸事業が予定され、令和12年の開業目標としています。道路整備も併せて進めていく予定です。これにより、^{けんざん}嶮山付近で予定される新駅へのアクセス性向上にも寄与します。</p> |
|--------------------|---|

| | |
|----------------------------|---|
| <p>事業の効果 (費用便益分析等)</p> | <p>1 定性的事項 (1)安全性の向上 生活道路に入り込んでいる車両の当該路線への転換が期待されるとともに、幅員の広い歩道が整備されることによって歩行者の安全性を確保することが可能となります。</p> <p>(2)災害に強い街づくりを促進 沿線には住宅を中心に、学校や病院などが立地していることから、災害・緊急時における緊急物資の輸送路や、緊急車両の通行路としての機能を確保するなど、災害に強い街づくりを促進します。</p> <p>(3)アクセス性の向上 当該地区の整備により、区内の幹線道路(横浜上麻生線、日吉元石川線)を東西方向に接続する道路ネットワークの形成に寄与することから、地域拠点へのアクセス性が向上します。</p> |
|----------------------------|---|

| | | | | | | | |
|------------|--|--------|-------|--------|------|------------|-----|
| | <p>2 定量的事項（費用便益分析）</p> <p>国土交通省の費用便益分析マニュアル（平成 30 年）に基づき費用便益比（B/C）を算出しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>総便益(B)</td> <td>105億円</td> </tr> <tr> <td>総費用(C)</td> <td>56億円</td> </tr> <tr> <td>費用便益比(B/C)</td> <td>1.9</td> </tr> </table> <p>※社会的割引率は4%</p> <p>※便益については、走行時間の短縮、走行経費の減少、交通事故の減少を計上しています。</p> <p>※費用については、道路整備に要する工事費、用地費、補償費、間接経費等を計上しています。</p> | 総便益(B) | 105億円 | 総費用(C) | 56億円 | 費用便益比(B/C) | 1.9 |
| 総便益(B) | 105億円 | | | | | | |
| 総費用(C) | 56億円 | | | | | | |
| 費用便益比(B/C) | 1.9 | | | | | | |
| 環境への配慮 | <p>歩道や植樹帯などで構成されている歩行者系空間については、沿道の状況に合わせて広い歩道を設けるなど整備を進めます。</p> <p>無電柱化により、防災力・安全性・快適性の向上及び良好な景観形成を図るよう努めます。</p> | | | | | | |
| 地域の状況等 | <p>「都市計画道路の優先整備路線」は、市民意見募集を経て、策定しています。</p> | | | | | | |
| 事業手法 | <p>公共発注方式によります。</p> | | | | | | |
| その他 | <p>なし</p> | | | | | | |
| 添付資料 | <p>別紙1 青葉区の都市計画道路の優先整備路線</p> <p>別紙2 現地の状況（写真）</p> <p>別紙3 標準横断面図</p> | | | | | | |
| 担当部署 | <p>道路局 計画調整部 企画課（TEL 671-2777）</p> | | | | | | |

青葉区の都市計画道路の優先整備路線

～ 「都市計画道路」の整備と着手の目標を見直しました ～

| 取扱いの凡例 | | 目標時期 |
|--------------------|-------|----------------|
| 区分 | | |
| 整備済み ※1 | ——— | |
| 事業中 | ■■■■■ | 平成32年度頃までに完成 |
| | ■■■■■ | 平成37年度頃までに完成 |
| 優先整備路線 | ■■■■■ | 平成32年度頃までに事業着手 |
| | ■■■■■ | 平成37年度頃までに事業着手 |
| 着手時期未定路線 | ■■■■■ | 未定 |
| 変更候補 ※2 | ——— | ※3 |
| 追加候補 ※2 (新たな計画) | ○○○○○ | ※3 |

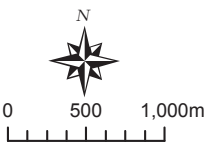
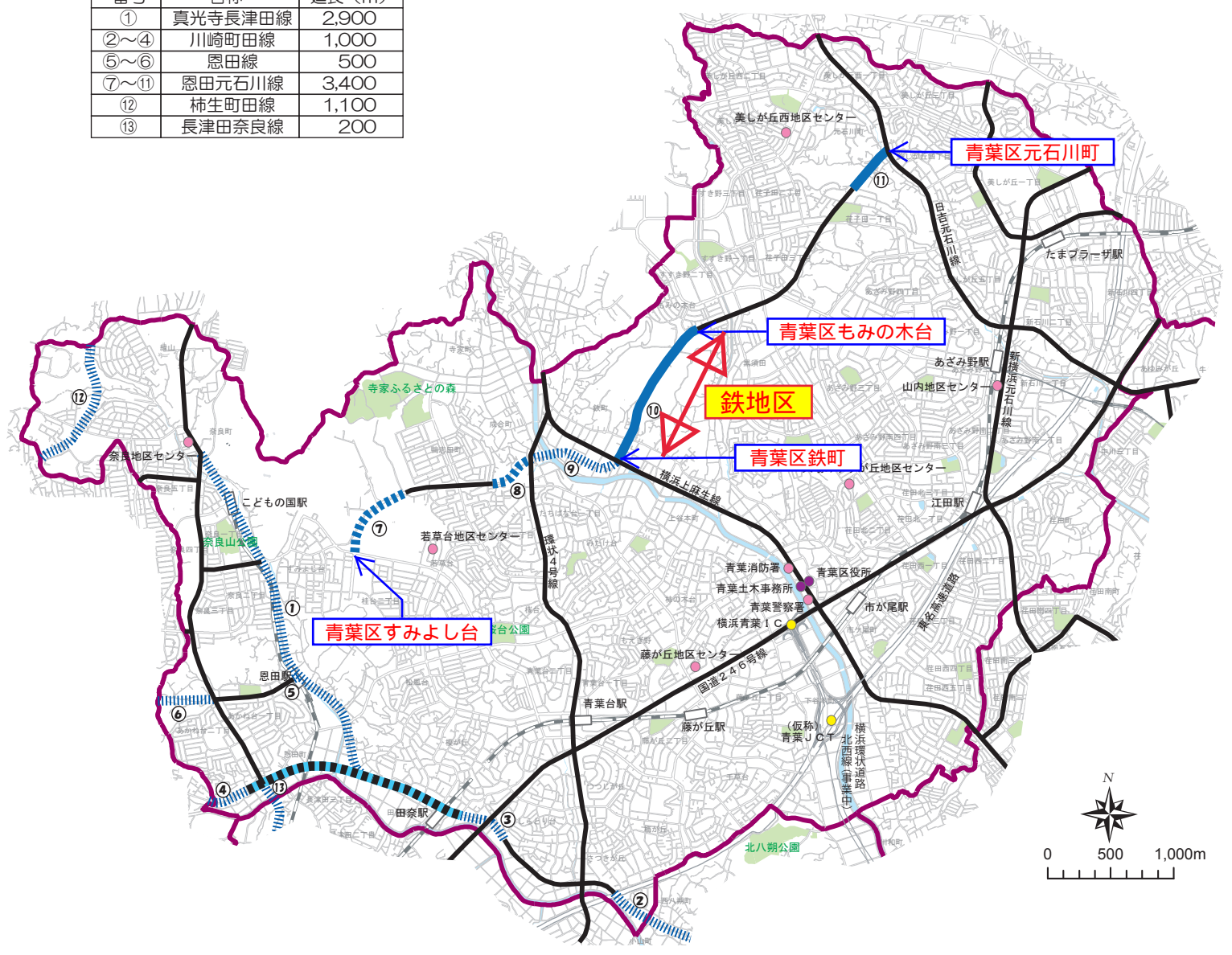
| 凡例 | |
|-----|----------------|
| ——— | 市界・区界 |
| ■ | 主な公園など |
| ● | インターチェンジ（IC）など |

今後の計画と整備における留意事項

- 次の場合には、関連する都市計画道路の取扱いと整備について、その進捗に合わせて検討してまいります。
 - ・今後、土地区画整理事業や市街地再開発事業などの面的整備、新たな鉄道連続立体交差事業など、まちづくりが具体化した場合
 - ・米軍施設返後の土地利用計画が具体化した場合や米軍施設内の土地利用に変化が生じた場合
 - ・新たな自動車専用道路などの計画が具体化した場合
- 各路線の事業着手については、財政状況や国の補助事業採択などの事情、着手済み事業の進捗状況などにより、時期が前後することがあります。
- 着手時期が未定の路線においても、渋滞交差点の改良など必要に応じて局所的な改善については引き続き行ってまいります。
- 各路線の目標時期については、事業の進捗を踏まえおおむね5年ごとに見直しを行います。

※1 整備済みには「概成区間」（車道は確保されているが、歩道の拡幅が残るなど）も含まれます。
 ※2 平成20年5月の都市計画道路網見直し素案によります。
 ※3 着手の時期は、都市計画手続の段階で考慮します。

| 番号 | 名称 | 延長 (m) |
|-----|---------|--------|
| ① | 真光寺長津田線 | 2,900 |
| ②～④ | 川崎町田線 | 1,000 |
| ⑤～⑥ | 恩田線 | 500 |
| ⑦～⑪ | 恩田元石川線 | 3,400 |
| ⑫ | 柿生町田線 | 1,100 |
| ⑬ | 長津田奈良線 | 200 |



平成28年3月

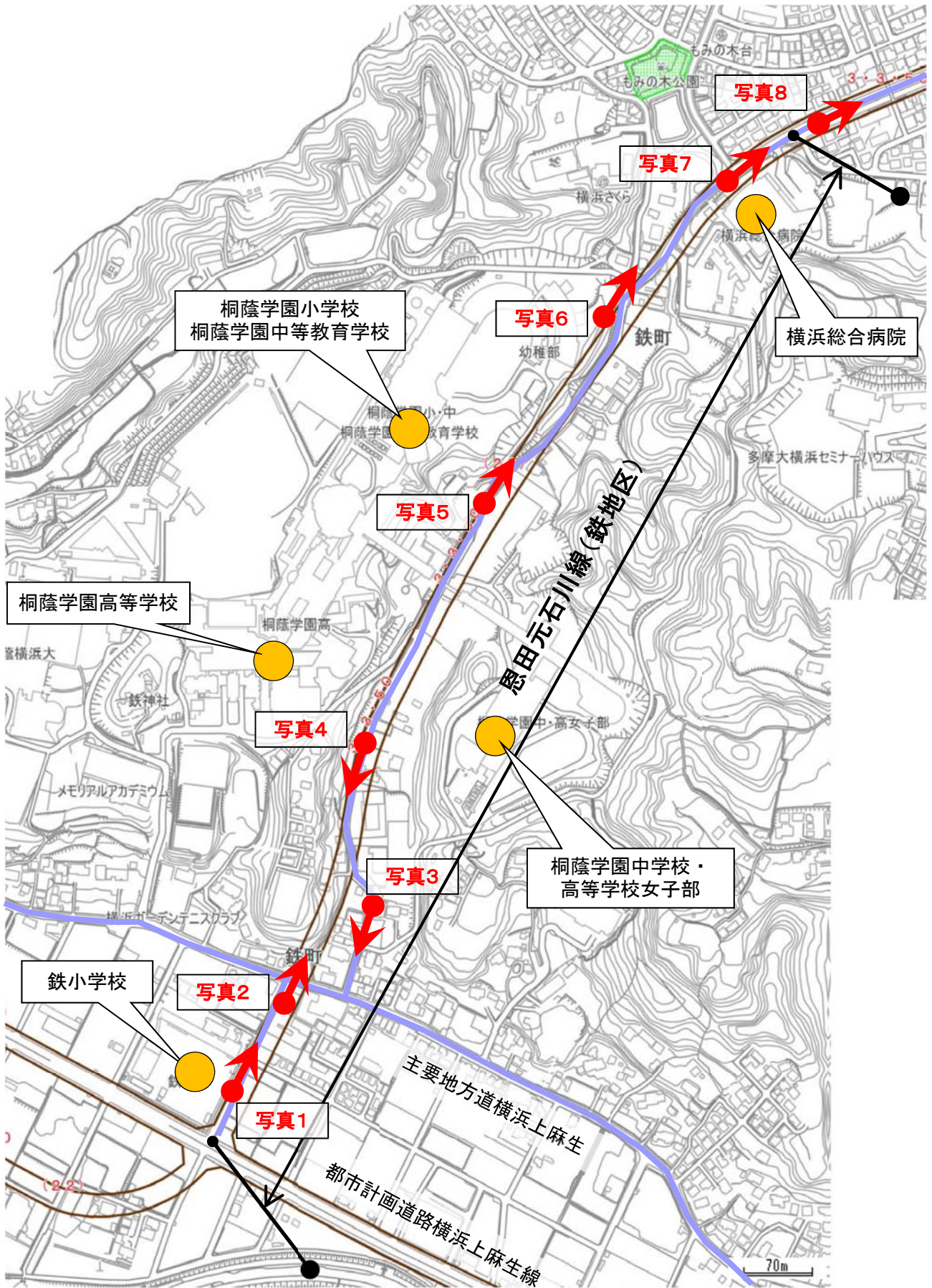


写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7

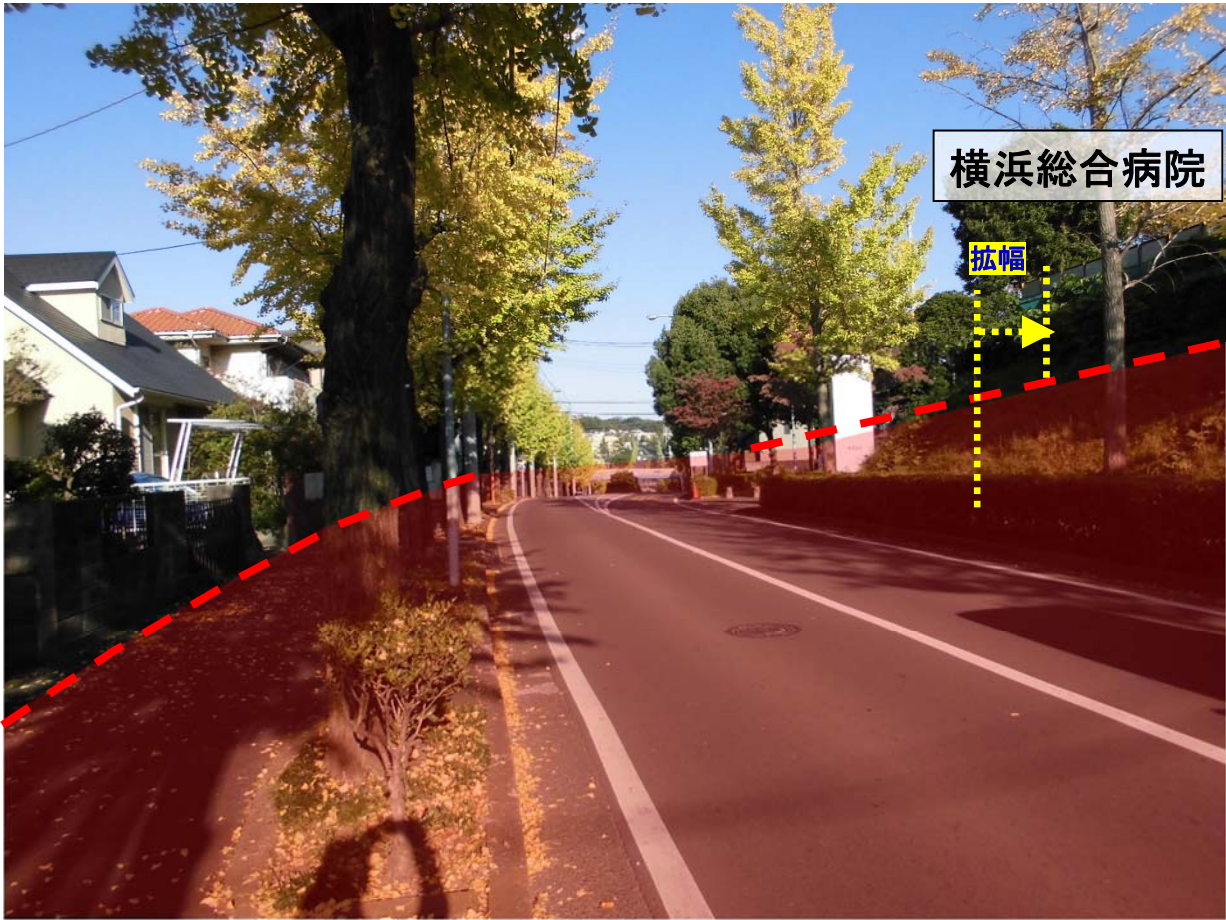
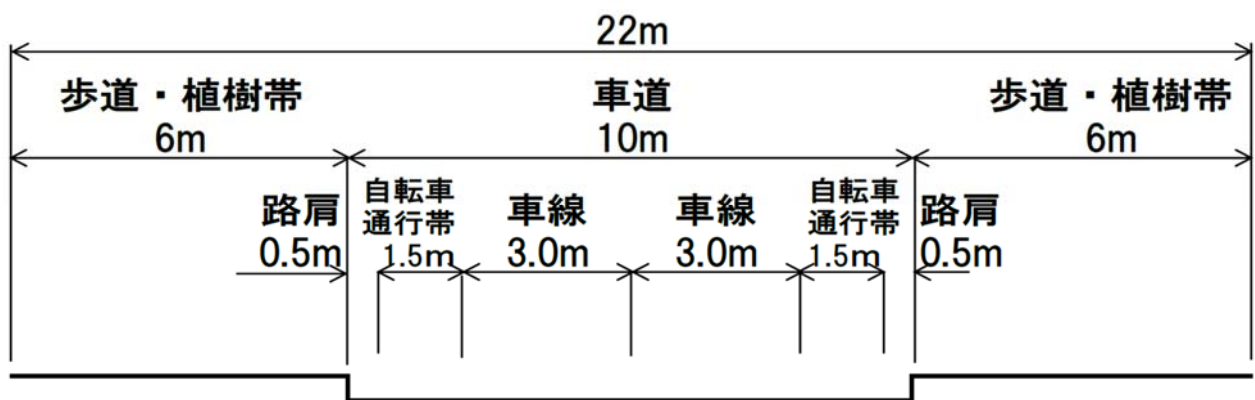


写真8



標準横断面図

一般部



※今後変更になる場合があります。